

平成 28 年度 第 1 回油化学セミナー
「ここまでわかるようになった最新機器分析技術
(界面・油脂産業を支える機器分析技術のご紹介)」

企業にお勤めの皆様は、よりよい商品の開発に向けて、魅力的な素材を数多くお持ちのことと思います。しかし、「おもしろいけれど、そこで何が起きているのかわからない」という壁をお感じになることもあるかと思います。本セミナーではそのような壁を乗り越える手段として、界面・油脂産業に関連した最新の機器分析技術をご紹介します。皆様の研究開発の一助になることを期待し企画しております。多数のご参加をお待ちしています。

日時： 平成28年5月20日(金)10:25～16:30 (受付開始 10:00)
場所： 東京理科大学森戸記念館 第1フォーラム (東京都新宿区神楽坂 4-2-2)
交通： JR, 地下鉄東西線・南北線・有楽町線・大江戸線 「飯田橋」駅下車 徒歩 10 分
主催： 公益社団法人 日本油化学会関東支部

プログラム(演題および講師)：

10:25～10:30 開会の挨拶

10:30～11:25

1. 「コロイド科学における中性子小角散乱」

総合科学研究機構 岩瀬 裕希 氏

中性子小角散乱(SANS)の特長、茨城県東海村のJ-PARCに設置されている中性子小角散乱装置「大観」、およびその利用支援について、コロイド分散系の測定例を交えて紹介する。

11:30～12:25

2. 「小角X線散乱技術を用いた界面活性剤分子集合体の溶液状態解析と
その製品開発への応用」

ライオン(株) 小倉 卓 氏

小角X線散乱技術はコロイド次元の大きさをもつ分子集合体の構造特性を捉えることが可能であり、特に溶液中の界面活性剤の会合状態に関する様々な情報を得ることができる。今回、本技術の有用性について実用例をもとに紹介する

12:25～13:30 休憩

13:30～14:25

3. 「溶液中試料の高分解能・高コントラスト観察を可能とする新規誘電率顕微鏡の開発」

産業技術総合研究所 小椋 俊彦 氏

走査電子顕微鏡を用いた従来の液中観察技術の紹介を行い、さらに我々が開発した新規の誘電率顕微鏡に関して報告を行う。誘電率顕微鏡は、そのままの液中試料を高コントラストかつ10 nm以下の高分解能で観察することが可能である。

14:30～15:25

4. 「乳化・分散物のレオロジー」

花王(株) 名畑 嘉之 氏

乳化・分散構造からなる製品の様々な性能は、その変形・流動特性により支配される。化粧品を例に、物の変形と流動を扱うレオロジーの基礎と、製品性能の定量評価、製品構造の推定への応用例について紹介する。

15:30～16:25

5. 「キラルHPLCによる食用油脂中のトリアシルグリセロール異性体分析」

月島食品工業(株) 永井 利治 氏

近年のキラルHPLCの発展により、長年困難であったトリアシルグリセロール鏡像異性体の分離が可能となってきた。本講演では、これまでのトリアシルグリセロール異性体分離の経緯とその分離例について紹介する。

16:25～16:30 閉会の挨拶

17:00～19:00 懇親会(東京理科大学学生食堂)

参加費(テキスト代を含む): 参加費・懇親会費は当日会場にてお納め下さい。

日本油化学会個人会員	8,000 円
日本油化学会法人会員勤務者	10,000 円
会員外	18,000 円
学生	4,000 円
懇親会参加費	3,000 円(学生は 1,000 円)

申込方法: ①氏名, ②所属, ③連絡先(住所, 電話番号, E-mail), ④会員資格(上記参照)⑤懇親会への参加有無を明記の上, 下記申込先まで E-mail もしくは Fax で申し込みをお願いいたします。

申込締切: 平成 28 年 5 月 13 日(金)17:00 まで

申込先: 株式会社 ADEKA 食品開発研究所 山下 敦史

E-mail: Yamashita@adeka.co.jp Fax: 03-3809-8286